

St. Luke's International University Repository

第1回マギル大学夏期語学研修報告

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2007-12-26 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 助川, 尚子, 深谷, 計子 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10285/314

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



第1回マギル大学夏期語学研修報告

助川尚子¹⁾、深谷計子²⁾

要 旨

本稿は研究報告ではなく、実践報告である。

1994年7月25日より8月29日まで36日間、カナダのモントリオールにあるマギル大学において聖路加看護大学の学生希望者を対象にした本学はじめての夏期語学研修が行われた。参加者は19名（1年1名、2年2名、3年7名、編入1年6名、編入2年2名、卒業生1名*）で、7月25日より1週間、助川が視察した。

*人数が当初予定の20名に達しなかったため特別参加となった。

はじめに

ここ20年来、国の内外で国際化が叫ばれるなか、わが国の英語教育においてもやっとコミュニケーション重視の傾向が強まり、殊に近年発信型の英語能力の取得が英語教育界で脚光を浴びている。カリキュラム改正や新しいプログラム、コース等を新設する場合、まず学習者並びにそれを取り巻く環境のニーズを考慮、分析することから始めなければならない。英語教育においても例外ではない。大まかに分ければこのニーズは、

- (1) 国や社会のニーズ
- (2) 当該教育機関の方針
- (3) 学習者のニーズ

を含み、このニーズの一致が、一つの計画を実行に移す前提条件にならう。

さて、1991年度の大学設置基準の改正に伴う英語教育のあり方については、文部省は各大学ごとに柔軟で独自のカリキュラムを推奨し、これに伴って海外研修や検定試験による単位認定の動向も広まってきた。併せて設置基準(P.92)の中では自然科学系における国際的性格を考え、専門分野の英語教育への配慮も期待されている。

また(2)に関しては、伝統的に本学は英語教育を重んじ、本学の教育理念も人種・文化を越えた国際的視野、

高い専門性などにふれている。

(3)の学習者のニーズに関してはRobinson(ESP Today 1985)にもあるように一面的には処理できないものの、小池他が「大学英語教育に関する実態と将来像の総合的研究(II)―学生の立場」(JACET, 1985)の中で行った全国の大学・短大生対象のアンケートでは、大学の英語教育の学習目的はコミュニケーション能力を高めるためとするものが60%を占め、又、多くの学生が、4技能(リスニング・スピーキング・リーディング・ライティング)向上には、英語圏での海外研修がほかの学習方法より効果的と考えている。更に同研究によれば専門分野の英語の学習に関しては、人文系に比べて自然科学系の学生の方が3倍も多く学習への関心を示したとしている。本学が、1993年春、学部全学生に行った英語教育に関するアンケート調査の結果からも、50%余のものが海外研修制度に強い関心があることが判明した。又、専門(看護)の英語については80%という多数の学生が望んでいることが分かった。

このような趨勢の中で、助川が学園ニュース(196号)で述べたように国際的コミュニケーションの重要性と専門領域との関連の英語教育の一助としての海外研修の企画がなされた。

I. 経緯

他校の例を参考に海外研修の候補地の検討を重ねてきたが、以下の見地からカナダのモントリオールにあるマギル大学の語学プログラムに参加することが決定

1) 聖路加看護大学教授(英語)

2) 聖路加看護大学助教授(英語)

した。ここに至るまでにはまず、1993年8月深谷が現地視察し、学習環境、宿泊施設、プログラム等について関係者と意見を交換したあと、研修案を本学教授会に計り承認を得た。

1. 受け入れ先の安全性。
2. プログラムの質の高さ、トータルな教育的配慮がみられる。
3. プログラムは語学研修であるが研修校が英語、看護の両方の分野で評価が高い。
4. フィールドワークプロジェクトが組み込まれ、異文化(英・仏)に接する機会が多い。
5. 現地の英語になまりの少ないこと。
6. 知人の有無(マギル大学の準学長が助川の先輩であること)。
7. クラスサイズが10名の少人数。
8. モニター制(「基本プログラムの特色」の中で説明)の実施。
9. 1992年、1993年にマギル大学で語学研修を受けた津田塾大学による本研修の評価が大変高かったこと。

以上の事項を踏まえて、その後、現地コーディネーターと連絡、協議を重ねた結果、以下の結論を得た。

- (1) 20名の参加者が見込まれた場合は、看護英語、医療施設の見学等も追加した聖路加看護大学参加学生用の独自のプログラムの設定が可能。
- (2) 20名未満の場合はマギル大学の既成のプログラムに他校の生徒と一緒に参加。

1994年度参加応募者は19名であったが、交渉の結果、聖路加看護大学学生のための独自のプログラムを、組んでもらうことになった。

研修に先立ち6月半ば、マギル大準学長のDr. Ikawa-Smithが来校し、本学の学長・学部長と面談後、参加者を交えて事前の打ち合わせを行った。

II. 基本プログラム (マギル大学既成のプログラム)の特色

1. 本コースはカナダの文化を背景としたlisteningとspeakingによる、発言力の強化コースである。
2. 1クラス10名で、1クラスごとに1名マギル大学英文科大学院生がモニターとして学寮に起居し、24時間日本人学生の相談及び世話をする。
3. 月曜から金曜まで午前中は教室での授業、午後はラボ、市内見学などにより学習したことを応用する。
4. 週末はトロント、ナイアガラ、ケベック等を見学しカナダの文化、自然に関する学習をする。
5. 4回の週末中、一回はマギル大学関係者宅にて2泊3日のホームステイを行う。(その他は大学寮に宿泊)
6. カルチャープログラムには担当の教授及びモニター

が交替でつきそう。

III. 聖路加看護大学参加学生用の独自のプログラムの特色

本学のプログラムは、上記の基本プログラムをベースとしているが、同大学で行われた他大学(津田、東女、カリタス)のプログラムとは、以下の点で異なる独自のプログラムとなった。(マギル側は、本コースをEnglish for Special Purposesとした)

尚、プログラムの全行程概略(資料1)、コースの授業時間、コース内容(資料2)については、末尾の資料1、2を参照。

1. 学習内容に半分看護を採り入れ、またカルチャープログラムにも病院見学(Royal Victoria Hospital)、病院実習(RVHの現職ナースとペアを組んで行うbuddy systemによる)、エイズ患者の講演などを含め、看護学生向きのプログラムであった。
2. 本プログラムは学生に主体性を持たせたため、マギル大学との通信連絡、クラスの要望伝達、送金、現地への交通確保、保険等は学生が行った。

その結果、学生の自主性が強化された上、旅行代理店を通さないため、費用も39万円(研修費、宿泊、食事、見学を含む)プラス航空運賃約17万円と他大学に比べ15万円安くなると同時に、海外渡航に関する多くの実務を体験学習した。

また、現地集合、現地解散にしたため、道中自分たちの責任において自由行動をとることができた。

3. 研修期間は本学のクラススケジュールにあわせるように依頼し、全員が4週間の研修を受けられた。(学生によっては、直前・直後、実習期間に当たっていた。)
4. 本研修を単位認定(選択)のプログラムにするため、課題として事前に1カ月英文の日記を課し、それを録音し提出させ指導を行った。また、研修中持ち回りで英文日誌を記録させた。

IV. 本学の行った参加学生への帰国後のアンケート結果

1994年9月の第1週(研修終了後2週間)に参加者19名にアンケートを行い、16名から回答を得た。(表1、結果の数値は%で表示)

調査は、

- (1) プログラム全体に対する評価
- (2) カルチャープログラムの評価
 - ① 看護、医療関係施設の見学と実習ならびにエイズ患者の話
 - ② カナダの文化、自然の学習
- (3) 語学プログラムの評価

(4)語学力向上に関する自己評価

の4つの内容に関して行われた。アンケートでは5段階評価を用いた。

プログラム全体については、以下に示す通り学生は高い評価(5段階中4~5)を与えている。

全体の満足度	94%
モニター制	100%
安全性	100%
宿泊設備	88%
食事	75%

カルチャープログラムのうち看護関係のプログラムでは、以下のパーセンテージの学生が、それぞれ5段階中4~5の高い評価を行っている。

Royal Victoria Hospitalでの実習	69%
Community Health Centerの見学	25%
AIDS患者の話を聞く	94%
また一般のカルチャープログラムでの平均は、	75%
ホームステイでは	100%

の学生が高い満足度を示している。

R. V. Hospitalにおける看護実習、AIDS患者の話を聞く、ホームステイなど人間と直接関わるプログラムのほうがただの見学より高い満足度が見られる。

英語の授業に関しては、 75%

の学生が高い満足度を示している。1994年度のプログラムは看護に関する英語を多く取り入れたため、難しすぎたという意見があがっており、25%の学生は高い評価をしていない。

英語力における自己評価では

speaking	69%
listening	75%

が、それぞれその向上を認めている一方、以下の内容では、その実力がのびたと思う学生は

writing	19%
reading	13%

という低い結果に終わっている。

V. 本学において研修前と後に行ったテストの結果

参加者のうち、卒業生を除く18名に対して6月と9月にlisteningとspeakingのテストを行った。

Listening Test (TOEFL Model Examination: Model Test One Sec.1: Listening Comprehension使用)では、100点満点で

研修前の平均は	46.2点
研修後は	58.1点

という得点結果を得た。これは11.9点という差を示しており、パーセンテージにして25.8パーセントの伸びである。

一方、Speaking Test(英検準一級面接用テスト使用)は4コマの絵を見て英語で説明し、その後その絵に対する5つの質問に答えるテストで、これについては、研修後は全員5段階中0.5~1段階向上している。speakingについて顕著な進歩が見られたのは、次の諸点である。

1. 応答が早くなり自然になった。
2. 形容詞の使用頻度が高くなり、表現が多様化した。
3. 話す文が高度な構文になった。
4. 文法のことを意識せずに話しているながら正しい文法になっている。
5. 緊張せず、自信を持って話せるようになった。

又、参加者が修了課題として現地で制作したVTRのパフォーマンスも評価の対象とした。ビデオの製作は本プログラムの特徴で、参加者は研修最後の週のクラスワークやワークショップの時間を使い、教官指導の下にアイデアを練り、セリフを覚えて演じ、ビデオで撮影した。19名の参加者は6グループに分かれ、コース中看護関係で扱われたトピックスを選び作業を行った。

選ばれたテーマは次のようなものであった。

- The Effects of Drinking and Smoking on Pregnancy
- What Do You Know about AIDS?
- The Elderly and Falling Down
- The Elderly and Diet/Exercise

等である。

なお、この修了製作は修了式で、ホームステイのホストファミリーや、教授陣、関係者一同の前で披露された。

VI. マギル大学側の評価

達成度に関するもの

達成度の評価は授業中のパフォーマンスや課題、参加者が研修担当の教授指導の下に製作したビデオによる。

担当教授らの概評は、本学の学生は他大学の学生に比べきわめて高いモチベーションと集中力があり、クラスでの課題への取り組み方は秀逸であったとのことである。

一方、専門英語の内容を理解し、発言するには、一般英語の技能、殊にリスニングの力が不足しているというコメントも受け取っている。

マギル側の評価は、今回のプログラムの特殊性と、参加学生のリスニング、スピーキングのレベルが予想より下回っていたことから、評価の対象をapplication能力とprogressに絞り、大まかにAかBという総合評価を行っている。本学の場合、英語専攻の学生を

対象とした必修の研修ではなく、各学年レベルの異なる学生の自由な参加というプログラムであり、一様なスキルの評価は困難と思われる。従って評価はかなり大まかなものになるのは致し方がない。

プログラムの適当性

マギル側が本学参加学生に行ったアンケートの結果、

コースの満足度は 5段階中	3.9
有用性については	3.9
一般英語に対しては満足度	4.5
専門(看護)英語に対しては	3.5

これを参考にマギル側は他校の数値と比べ、今回の特殊プログラムについて用意した専門英語のプログラムは、用語、内容が基礎力不足のため不消化に終わったものもあるとしている。聖路加の学生は現状では看護英語よりも、まず一般英語を強化すべきであるとコメントしている。

VII. 考察

毎年5カ月にわたる海外語学研修を行っているY大学の岩井は学習効果について「海外文化語学研修の英語教育に果たす役割」(1992)の中で次のように述べている。「海外語学研修開始後約2カ月でhearingやspeakingといったいわゆるoral skillsが伸びたと実感した学生は3割にも達していない。逆に伸びていない、よく分からないとした回答者が7割以上を占めている。5カ月の研修終了時には語学力が伸びたと感じた参加者は42%まで上昇しているが過半数はやはりこれを否定するかまたは、はっきりした認識を持っていないかのいずれかである。」一方、本学における意識調査では7割以上の生徒がlistening, speaking力が伸びたと実感している。

また205名のK短大生を対象として行われた5週間のオーストラリアの語学研修の結果を岩切は「Effects of a Study Abroad Program on the English Development of Japanese College Students」(1993)でlisteningの力の伸びの著しさについて言及しているがpre-testで41.46点、post-testで45.92点、差が4.46点であった。

これに反して本学では4週間の研修後、listeningのテストで11.9点の差(pre-test 46.2点、post-test 58.1点)が見られ、こうした結果からみると本プログラムはまずまず成功だったといえよう。

VIII. 総括と今後の方針

第1回の語学研修では準備に追われ、参加者の事前・事後の語学力のより正確な測定、参加者と非参加者の客観的な比較テスト等は行っていないが、これらは今後の課題である。しかし帰国後の参加学生の授業中のパフォーマンスや課題に見られるスキルの向上は顕著なものがみられ、本プログラムによってspeaking, listeningの力の向上とともに、英語に対する自信が生まれたのは確かである。また、本学外国人教師からも参加者の授業中のコミュニケーションの能力(言語+非言語)に向上がみられるというコメントも得ている。

スケジュールの過密、能力レベルの不揃い、マギル大学からの成績送付の遅延、受け入れ側の学生に対する英語力のレベルの認識不足などの点は、1995年度からは、関係者の事前の緻密な打ち合わせによって改善されるであろう。尚、1995年度のプログラムに関しては、前述の諸点を含めてマギルから以下の案が出された。

1. 看護英語を減らす。
2. 看護英語に力を入れるには参加者が1994年度参加者より一般英語の実力(殊にリスニング)のレベルが高くないと無理。従って、一般英語を中心に看護英語を適宜入れる。但し、一般英語のレベルが高い参加者には、看護英語の特別レッスンを考慮する。

以上の結果から、60時間に及ぶクラスアワー並びに生の英語に接する様々な課外活動を含む4週間の海外英語研修は、前述のように今日の英語教育のニーズに沿うものであり、語学力の向上とともに異文化への理解を深めることができると考え、通常の授業の2単位分(選択)を認定することが妥当であると考えられる。

今後とも学習者のニーズに対応するべく、一般英語と専門(看護)英語を適当に採り入れながら、柔軟な研修プログラムを組んで、英語コミュニケーション能力の養成、異文化の理解、専門分野の専門性を強化するための一助となるべく努力したい。最後に、海外研修実施に当たっては、全学的な理解とサポートが不可欠な要素であることを付記しておく。

本稿が将来、海外語学研修を計画している方達にささかなりとも参考になれば幸いである。

<参考文献>

- 1) 岩井千秋(1992)「海外文化語学研修の英語教育に果たす役割」『安田女子大学英語英米文学会 英語英米文学論集』。
- 2) 岩切美智代(1993)Effects of a Study Abroad Program on the English Development of Japanese College Students 「大学英語教育学会 紀要」24号、PP.41～60。
- 3) 小池生夫他(1985)「大学英語教育に関する実態と将来像の総合的研究(II)－学生の立場」大学英語教育学会(JACET)。
- 4) JACETハンドブック作成特別委員会(1992)「大学設置基準改正に伴う外国語(英語)教育改善のための手引き(1)」大学英語教育学会(JACET)。
- 5) 助川尚子(1993)「大学設置基準改正と英語教育」『聖路加看護大学学園ニュース』196号。
- 6) 文部省高等教育局企画課監修(1992)「大学設置基準審査要覧」文教協会。
- 7) Robinson, Pauline (1991) ESP Today PP.7～18, Prentice Hall International.

表1 本学によるアンケート結果

Vは最も評価が高く、Iは最も低い。百分比による

		V	IV	III	II	I	
満足度		44	50	6	0	0	
安全性		80	20	0	0	0	
生活全体		宿泊設備	63	25	13	0	0
		食事	25	50	13	13	0
		モニター制	75	25	0	0	0
		モニター個人	75	25	0	0	0
		全体	44	50	6	0	0
カルチャープログラム	(看護医療関係)	R. V. Hospital実習	50	19	25	6	0
		C. Health Center見学	6	19	44	25	6
		AIDS患者の講演	75	19	6	0	0
	(一般)	ケベック	50	31	19	0	0
		ナイアガラ	50	19	31	0	0
		ホームステイ	94	6	0	0	0
		平日プログラム	13	56	31	0	0
語学プログラム		授業全体	19	56	25	0	0
		担当教師	44	56	0	0	0
		テキスト	19	63	6	6	6
英語力の変化 (自己評価)		speaking	25	44	19	13	0
		listening	25	50	19	6	0
		writing	0	19	38	31	13
		reading	0	13	44	31	13
		英語を話す機会	19	44	38	0	0
		英語を話す、聞く自信の増加	25	44	25	6	0

(資料1)

聖路加看護大学学生のための英語習得プログラム(概略) 7/25~8/18, 1994

(第一週)			
July 25 (Mon)	9:00-11:00 13:30 18:00	Placement Interviews Welcome Tours Dinner in Royal Victoria College Residence	
" 26 (Tue)	9:00-14:30 16:00 19:00	Workshop Welcome Reception - Radpath Museum Dinner - Le Flocon	
" 27 (Wed)	13:30	Campus Tour - Health Science Library Nursing Dept. Osler Library	
" 28 (Thu)	13:30	Workshop	
" 29 (Fri)	15:00 18:00	Old Montreal / Tour of Historic Buildings and Boat Ride Dinner in Old Montreal Restaurant Le Keg	
" 30 (Sat)	13:30	Day Trip to Quebec City	
" 31 (Sun)	11:00 18:00	Brunch - Chateau Champlain Free Afternoon and Pizza Dinner. Fireworks?	
(第二週)			
August 1 (Mon)	9:00-11:00 13:30 18:00	Group II - MGH (Montreal General Hospital) Group II - Discussion & Preparation for Community Health Center Group I - Language Laboratory	
" 2 (Tue)	9:00-11:30 13:30 13:30 17:30	Group I - MGH Group I - Discussion & Preparation for Community Health Center Group II - Language Laboratory Montreal Expos Game (Optional)	
" 3 (Wed)	9:00-12:00 13:30	Student Community Health Center Chinese Garden Movie - Philadelphia	
" 4 (Thu)	13:30	Table Games AIDS Reading	
" 5 (Fri)	16:00	Departure for Homestay (after Lunch)	
" 6 (Sat)	13:30	Homestay	
" 7 (Sun)		Homestay Return to Residence after Dinner	

(第 三 週)		
August 8 (Mon)	9 : 30-10 : 30 11 : 00-12 : 00 13 : 30	Group I - AIDS Speaker Group II - AIDS Speaker Language Laboratory
" 9 (Tue)	13 : 30	Museum of Fine Arts
" 10 (Wed)	7 : 00 8 : 00-15 : 00 13 : 30 18 : 00	Early Breakfast Group I - RVH - Nurse Buddy Program Group II - Olympic Park: Cable Car & Biodome Shopping Centre, Dinner - Le Faubourg
" 11 (Thu)	7 : 00 8 : 00-15 : 00 13 : 30 18 : 30	Early Breakfast Group II - RVH - Nurse Buddy Program Group I - Olympic Park: Cable Car & Biodome Friendship Night - Dinner in Thompson House
" 12 (Fri)		Day Trip to Ottawa
" 13 (Sat)		Day Trip to Niagara Falls
" 14 (Sun)		McMichael Museum
(第 四 週)		
August 15 (Mon)	13 : 30 17 : 30 18 : 30	Language Laboratory Presentation by Admissions Dinner in Bishop Mountain Hall Residence
" 16 (Tue)		Dinner in Professor's home
" 17 (Wed)	13 : 30	Language Laboratory
" 18 (Thu)	13 : 30 16 : 00 17 : 30	Course "Wrap-up" Certificate Presentation Dinner - Le Caveau
" 19 (Fri)		Optional Tour to Prince Edward Island Musical - "Anne of Green Gables"
" 20~22	9 : 15	Students leave group by group

(資料 2 の 1)

月曜～金曜の学内での日課			
8 : 00	Breakfast (Royal Victoria College)	12 : 15	Lunch (Royal Victoria College)
9 : 00-10 : 30	Classes		Fieldwork (プログラム参照)
10 : 30-10 : 45	Juice Break	18 : 30	Dinner in Residence
10 : 45-12 : 00	Workshops		(Royal Victoria College)

(資料2の2)

I 一般英語用テキスト：Take Part (Canada ESL Series) Prentice-Hall, 1992

* 内容目次省略

II 看護英語トピックス

A. THEMATIC UNITS

- 1) Prenatal and Obstetrics
- 2) The Elderly
- 3) Pain
- 4) Atherectomy
- 5) AIDS
- 6) The Nursing Profession (Nursing Role in Japan)

B. CLINICAL LISTENINGS

- 1) Hand Washing
- 2) Wound Unit
- 3) Taking Accurate Blood Pressure
- 4) How to Administer a Z-track Injection
- 5) Using Restraints
- 6) 6 Ways to Clear the Air
- 7) Triple-Lumen Central Venous Catheters

C. STORIES FOR DISCUSSION

D. MISCELLANEOUS

- 1) Drugs Information Sheet
- 2) Anatomy Drawings
- 3) Montreal General Hospital Admissions Forms